

CITY OF YOKOHAMA

脱炭素・GREEN×EXPO推進・  
みどり環境・資源循環委員会  
令和7年3月12日  
脱炭素・GREEN×EXPO推進局

# GREEN×EXPO 2027の開催に向けた 取組状況について

- 1 会場計画
- 2 会場建設費の見通し

## 1 会場計画

## 2 会場建設費の見通し

# 1 会場計画の検討状況について

「環境と共生する未来のグリーン社会」のあり方を市民の皆様と共に考え、世界に向けて発信するための会場計画の具体化を進めています。

地球と生きる  
未来の姿を  
体感する!



公式マスコットキャラクター  
トゥククトゥク



持続可能なグリーン社会を実現する最新のテクノロジー



昼も夜も楽しめる学びと発見のEXPO



生物多様性に支えられる  
「農」と「食」の近さを満喫



グリーン社会を実現する  
最新のテクノロジーと出会う場

Urban GX Village



自然と共に育まれた日本の伝統的な  
ものづくりが一堂に集まる場

Craft Village



「農」と「食」を通じて  
ウェルビーイングを追求できる場

Farm & Food Village



これからの地球を生きる子どもたちが  
楽しく自然と世界を学べる場

Kids Village



自然と人の共生する暮らしの  
心地よさを再発見できる場

SATOYAMA Village



最高水準の技法による  
日本庭園



日本の伝統美の生け花や盆栽を  
全身で感じる

## 圧巻の花景色の回廊へ

2015年に米軍から返還された上瀬谷の歴史や想いを未来へつなく友好平和の象徴として、会場に新たな花や緑の名所づくりを進めています。例えば、約40種類600本以上の桜。

GREEN×EXPO 2027終了後も市内最大級の桜の饗宴が楽しめる、新たな市民の財産として未来に受け継いでいきます。



河津桜 舞姫 染井吉野 菊桜 八重紅枝垂 越の彼岸



©(公財)日本花の会

### 1,000万株の花と緑

四季折々の花と緑が集い、豊かな自然や生物多様性を体感できる空間が広がります。花緑によるヒーリング体験の中で、地球環境の明日を考える場となります。

開幕 6か月の会期のなかで移り変わる花 閉幕



二十四節気七十二候を意識し、繊細に季節変化する四季を活かした人の営みを風景として表現します。

※掲載画像はイメージです

- 1 会場計画
- 2 会場建設費の見通し

## 2 協会の会場建設費の見通し及びチェック

別紙 2027年国際園芸博覧会協会 作成資料

- ・ 会場建設費の見通し
- ・ 《参考資料》主な整備内容

# (1) 会場建設費(見直し案)の算出方法・積算の考え方の確認

整備内容（基盤、造園、建築）等について、図面・設計書等での内容確認及び工事積算システムや単価・数量の算出方法等のチェックを実施

<チェックの対象>

項目	主な整備内容
基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 植栽基盤等（土壌改良 等）</li> <li>● 給排水設備（給水管、雨水側溝 等）</li> <li>● 電気設備（電線 等）</li> <li>● 園路・広場（舗装 等）</li> <li>● サイン・ベンチ等（サイン・表示板、ベンチ 等）</li> <li>● 駐車場・ターミナル基盤（電線・雨水側溝・舗装 等）</li> <li>● ネットワーク設備（アクセスポイント 等）</li> </ul>
造園	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主催者修景（大規模な花壇・庭園 等）</li> <li>● コモンズ（植栽 等）</li> <li>● 出展支援（学校等の植栽支援/区画間の芝張り 等）</li> <li>● 移動式植栽等（コンテナ、ハンギングバスケット 等）</li> </ul>
建築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● テーマ展示／園芸文化展示（仮設内装・設備、展示物製作 等）</li> <li>● 植物交流館（植物交流館 等）</li> <li>● 屋内出展施設（仮設建築 等）</li> <li>● 行催事施設（中催事場、小催事場 等）</li> <li>● サービス施設（飲食施設、トイレ 等）</li> <li>● 管理運営施設（入場ゲート、管理施設 等）</li> </ul>

<チェックの基準>

単価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>土木工事資材等単価表（横浜市）</u></li> <li>● <u>建設物価（建設物価調査会）</u></li> <li>● 積算資料（経済調査会）</li> <li>● 見積書</li> <li>● 過去の博覧会や類似イベント等の実績 など</li> </ul>
数量	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>設計業務数量算出基準（横浜市）</u></li> <li>● 過去の博覧会や類似イベント等の実績 など</li> </ul>

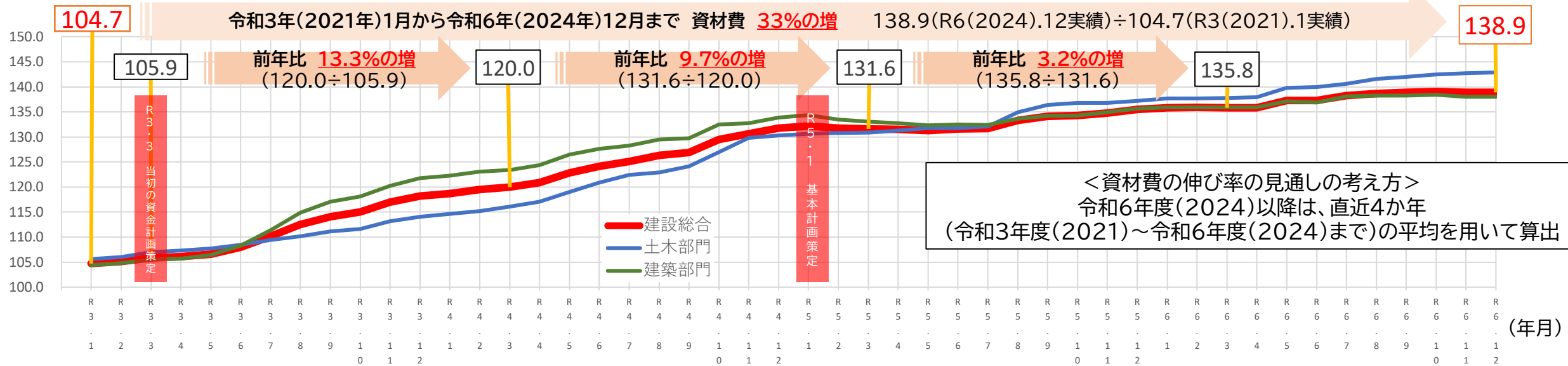
以上のような基準により、積算に際して工事積算システム(国土交通省)等を用いていることを確認

# (2) 当初(2021年3月)の会場建設費に対する物価上昇の影響の確認

## ① 資材費の伸び率の確認

(2015年を100とした価格指数)

建設資材物価指数 建設総合・東京 (一財) 建設物価調査会より



### < 確認事項 >

- ✓ 令和3年(2021)1月から令和6年(2024)12月までの資材費の上昇幅 (+33%) が協会資料と一致することを確認 (別紙P.3)
- ✓ 過去の「資材費上昇率(前年比)」(令和3年度(2021):+13.3%、令和4年度(2022):+9.7%、令和5年度(2023):+3.2%)が協会資料と一致することを確認 (別紙P.4)
- ✓ 令和6年度(2024)以降の資材費の伸び率の見通しは、令和3年度(2021)から令和6年度(2024)までの直近4か年の平均を用いて算出し、協会資料と一致することを確認 (別紙P.4)



## (2) 当初(2021年3月)の会場建設費に対する物価上昇の影響の確認

### ② 労務費の伸び率の確認

「令和7年3月から適用する公共工事設計労務単価について」(R7(2025).2.14付 国土交通省)より

近年の公共工事設計労務単価の単純平均の伸び率の推移

	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
全 職 種	+1.2%	→ +2.5%	→ +5.2%	→ +5.9%	→ +6.0%

令和3年度(2021)から令和6年度(2024)  
までを複利で計算  
**16%の上昇**

＜労務費の伸び率の見通しの考え方＞  
令和8年度(2026)以降は、直近4か年  
(令和4年度(2022)～令和7年度(2025)まで)の平均を用いて算出

#### <確認事項>

- ✓ 令和3年度(2021)から令和6年度(2024)までの労務費の上昇幅(+16%)が協会資料と一致することを確認(別紙P.3)
- ✓ 過去の「公共工事設計労務単価」(令和3年度(2021)+1.2%、令和4年度(2022)+2.5%、令和5年度(2023)+5.2%、令和6年度(2024)+5.9%、令和7年度(2025)+6.0%)が協会資料と一致することを確認(別紙P.4)
- ✓ 令和8年度(2026)以降の労務費の伸び率の見通しは、令和4年度(2022)から令和7年度(2025)までの平均を用いて算出し、協会資料と一致することを確認(別紙P.4)

## (2) 当初(2021年3月)の会場建設費に対する物価上昇の影響の確認

### ③物価上昇影響額の試算方法の確認

①②で確認した資材費・労務費の伸び率を用いた物価上昇影響額の試算方法が、  
どのように行われているかのチェックを実施

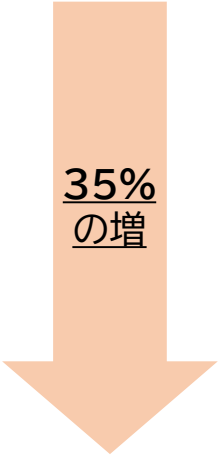
単位：億円

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	合計
当初執行想定額	—	5	12	41	138	104	11	9	<b>320</b>

#### <試算方法>

ア 会場建設費を「調査計画・設計」「工事」「撤去・復旧」の3つの業務に分類し、  
それぞれの業務の性質に応じて、下表の通り資材費と労務費の割合を設定

各項目の資材費/労務費の割合	資材費	労務費
調査計画・設計	0%	100%
工事	60%	40%
撤去・復旧	10%	90%



35%  
の増

イ 各年度の当初執行想定額を、その年度の事業内容に応じて3つの業務に分類し、  
それぞれに①資材費・②労務費の伸び率を乗じて物価上昇影響額を算出

単位：億円

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	合計
物価上昇影響額	—	+0.2	+1	+9	+47	+45	+4	+4	<b>+111</b>

### (3) コスト抑制策の確認

博覧会の演出・機能を低下させない範囲でコスト抑制を図ることで、総事業費を抑制するという協会の考え方を確認

#### ア 施設機能の複合化 ▲18億円

- ・大規模ステージ や客席上屋等の整備を中止
- ・利便性や機能性を損なわない範囲で施設の複合化

#### イ 簡素化 ▲12億円

- ・配置の工夫により建物の裏側・側面等の外装の簡素化
- ・仮設建築での規格品やリユース部材の積極的な利用

#### ウ 実施水準のメリハリ ▲4億円

- ・造園区画の植栽について、グレードを段階的にきめ細やかに設定

### (4) 予備費の確認

今後の予測できない事態への備えとして、他の国際的な大規模イベントにおいて、予備費を計上している事例の確認とともに、会場建設費の5%を計上するという協会の考え方を確認

## (5) 会場建設費の見通しの市負担分

今回の見通しにより、会場建設費のうち市負担分については、基本計画から最大25.9億円の増

### 基本計画

【総額の算出の考え方】  
 2.09億円/ha(大阪花博の単価)  
 ×  
 1.28(デフレーター)  
 ×  
 100ha(GREEN×EXPO博覧会区域)  
 +  
 50億円  
 (ICT基盤、セキュリティ整備等)

**市負担 85.3億円**  
 (全体320億円<R3(2021).3>)

### 今回の見通し

基盤工事 26.2億円

造園工事 21.1億円

建築工事 38.3億円

調査計画・設計 13.1億円

撤去・復旧 7.2億円

予備費 5.3億円

**市負担 最大111.2億円**  
 (全体 最大417億円)

**市負担**  
**最大+25.9億円**

※市負担分の考え方  
 全体の1/3 (地方自治体負担分) の  
 4/5 (横浜市負担分)

# 会場建設費の見通し

2025.3.10 2027年国際園芸博覧会協会

- GREEN×EXPO 2027の開催に向けては、SDGs、パリ協定、昆明・モンリオール生物多様性枠組み等の国際的な目標年である2030年の3年前に開催される最上位・A1クラスの国際園芸博覧会として、国内外の幅広い皆様との共創により、環境と共に生きる社会のあり方を示し、地球規模の課題解決に向けた行動と発信を行う重要な機会とすべく、基本計画に基づく会場計画の具体化を図ってきたところです。
- 今般、会場建設費について、近年の急激な物価及び人件費の上昇による影響やコスト抑制策について精査を行いました。  
その結果、コスト抑制策に取り組んでもなお、会場建設費の変更が必要な見通しとなりました。

# 項目別内訳

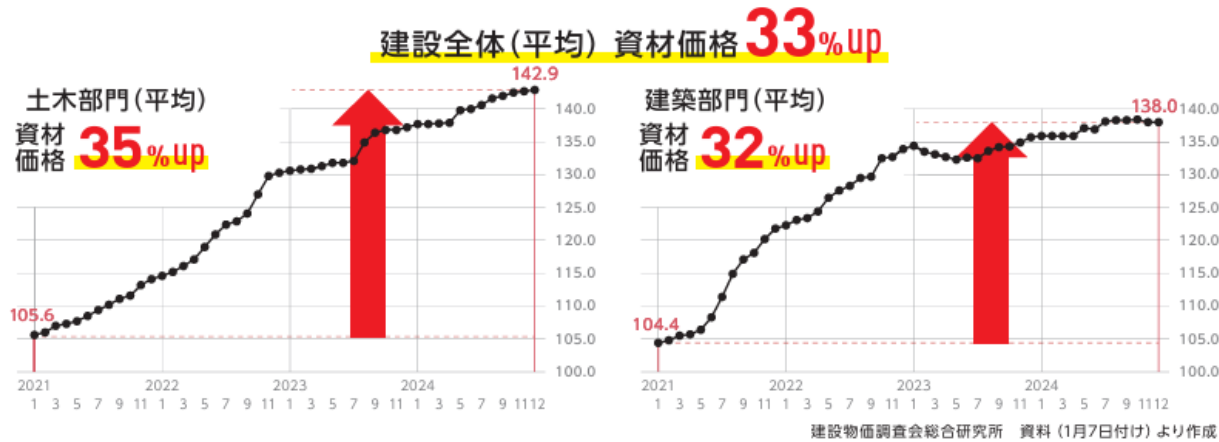
項目	金額(億円)	割合	内容
<b>事業費</b>	<b>397</b>	<b>95%</b>	
基盤工事	98	24%	植栽基盤等 / 給排水設備 / 電気設備 / 園路・広場 / サイン・ベンチ等 / 駐車場・ターミナル基盤 (舗装・電気設備等) / ネットワーク設備
造園工事	79	19%	主催者修景 (大規模花壇・庭園 / テーマ性のある花壇・庭園) / コモンズ (植栽) / 出展支援 (学校等の植栽支援 / 区画間の芝張り等) / 移動式植栽等
建築工事	143	34%	
<u>展示・出展施設</u>	55	13%	主催者の屋内展示施設 (内装・展示物製作等) / 出展者向け屋内出展共同施設
<u>行催事施設</u>	10	2%	ステージ / 客席上屋 / 楽屋・倉庫 / 照明・音響・映像設備
<u>サービス施設</u>	49	12%	飲食・物販施設 / 案内所・救護センター等 / トイレ / 休憩所・団体用施設
<u>管理運営施設</u>	29	7%	入場ゲート / 管理施設 / 植物バックヤード・物流施設等 / 輸送本部・輸送運営要員詰所等
<u>調査計画・設計</u>	49	12%	施設設計 / 発注者支援 / 工事監理 / 植物監理 / 環境影響評価
<u>撤去・復旧</u>	27	7%	
<b>予備費</b>	<b>20</b>	<b>5%</b>	事業費の5%相当額
<b>合計</b>	<b>最大 417</b>	<b>100%</b>	

※各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

従前の資金計画策定（2021年）以降、建設工事に係る資材費・労務費はともに大きく上昇

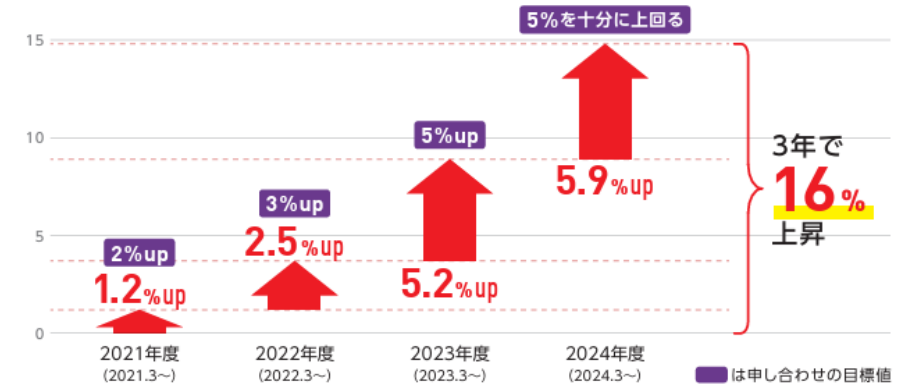
## 資材費

2021年1月～2024年12月の建設資材物価指数（東京）の推移（2015年平均=100）



## 労務費

公共工事設計労務単価(平均)の引上率



《出典》日本建設業連合会「建設工事を発注する民間事業者・施主の皆様に対するお願い」「建設資材高騰・労務費の上昇等の現状」パンフレット（2025年1月版）



# 物価上昇影響額の試算

今後も同様のペースで物価上昇が続くと仮定して影響額を試算すると、**+111億円 (+35%) 増加**

単位：億円

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	合計
当初執行想定額※1	—	5	12	41	138	104	11	9	<b>320</b>
物価上昇影響額	—	<b>+0.2</b>	<b>+1</b>	<b>+9</b>	<b>+47</b>	<b>+45</b>	<b>+4</b>	<b>+4</b>	<b>+111</b>
資材費上昇率（前年比）※2	+13.3%	+9.7%	+3.2%	+3.8%	+7.4%	+7.4%	+7.4%	+7.4%	
労務費上昇率（前年比）※3	+1.2%	+2.5%	+5.2%	+5.9%	+6.0%	+4.9%	+4.9%	+4.9%	

※1 当初執行想定額は、年度毎の執行予定額として当初想定していたもの

※2 資材費上昇率は、2023年度までは各年度3月末時点の公表値。2024年度以降は直近4か年平均を用いて機械的に延長した推計値  
(2024年度は、2025年1月までの公表値と、2月から3月までは直近4か年平均を用いて機械的に延長した数値とを用いて試算した推計値)

※3 労務費上昇率は、2025年度までは公表値。2026年度以降は直近4か年平均を用いて機械的に延長した推計値

※4 各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

博覧会の演出・機能等を低下させずにコスト抑制を図るため、施設機能の複合化等を行い、▲34億円（▲8%）削減

## 施設機能の複合化 ▲18億円

### ■ 大催事場

大規模なステージ・客席上屋等の整備を中止。開閉会式を他の中小規模の催事場とテント等のスポット的な追加で開催する想定に変更。

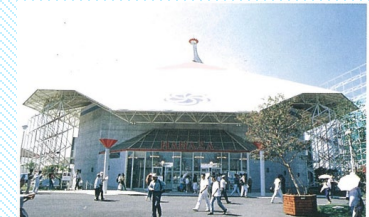
### ■ 迎賓館

外装・インフラ・廊下等の共用や作業のスケールメリットによるコスト抑制を図るため、他の施設に併設する計画に変更。

大阪花の万博（1990年）における催事場の例



メインホール  
(4,000席/本設建築)



テアトル花座  
(500席/仮設建築)

## 簡素化 ▲12億円

### ■ 営業施設

外装材、足場組み等の作業工程、リース建築の加工・復元等に関するコスト抑制を図るため、建物や植栽・日除けターフ・看板等の配置を工夫し、視野に入らない建物の裏側・側面等の外装を簡素化。

外装装飾あり  
(イメージ)



外装装飾なし  
(裏側・側面に使用)

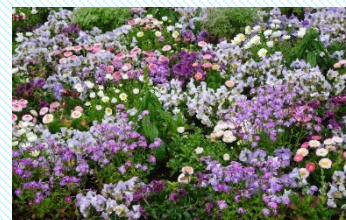


## 実施水準のメリハリ ▲4億円

### ■ 花修景

材料、花の密度、株あたりの単価等の組合せにおいて、季節ごとの変化など演出を低下させずにメリハリをつける工夫を行うことでコストを抑制。  
具体的には、過去の園芸博と同様の1年草による華やかな演出だけでなく、区画によって、宿根草を混栽したナチュラルな演出や、開花時期を調整しながら季節感を出す播種・球根も活用。

1年草による華やかな演出  
(イメージ)



宿根草を混栽したナチュラルな演出 (イメージ)



今後の予測できない事態にも的確・迅速に対応できるよう、

事業費（予備費を除いた397億円）の5%程度である20億円を確保

## 確保水準の考え方

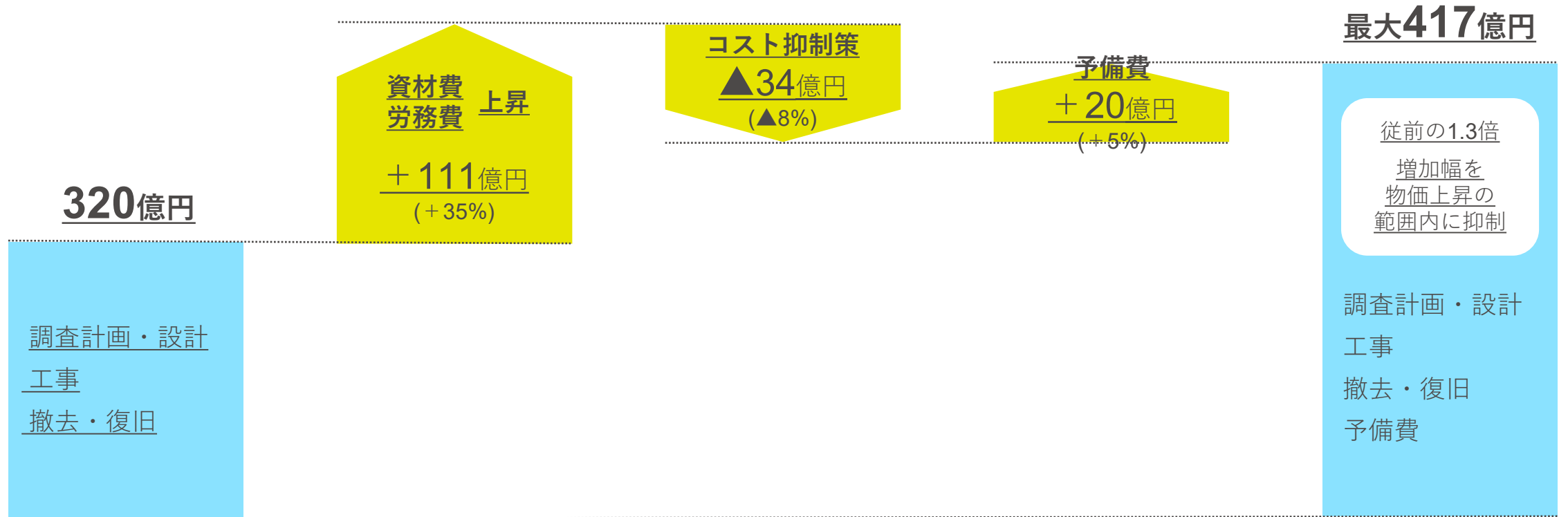
- 今回の物価上昇影響額の試算にあたっては、博覧会終了（撤去・復旧を含む）まで近年と同様のペースで物価上昇が続くことを想定済みだが、博覧会終了まで複数年を残しているため、想定を上回る物価上昇が生じた場合への備えが必要。
- 屋外中心の会場のため気象条件の変化による影響を受けることを踏まえ、異常気象・災害等に対応するための対策強化や緊急補修等への備えが必要。

## 執行の考え方

- 執行にあたっては、具体的な用途の妥当性について、国・地方自治体での各年度予算編成過程における審査等の機会を通じて、関係機関と十分に協議を行う。

# 会場建設費の見通し

物価・人件費の上昇の影響、コスト抑制策、予備費の確保を反映し、  
最大**417億円** (従前の1.3倍 / +97億円増加) となる見通し



※各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある  
※図形の大きさはイメージで、大きさと金額は一致しない

# 《参考資料》 主な整備内容

2025.3.10 2027年国際園芸博覧会協会

# 会場図



※建物の形状や配置を含め、現時点のイメージ

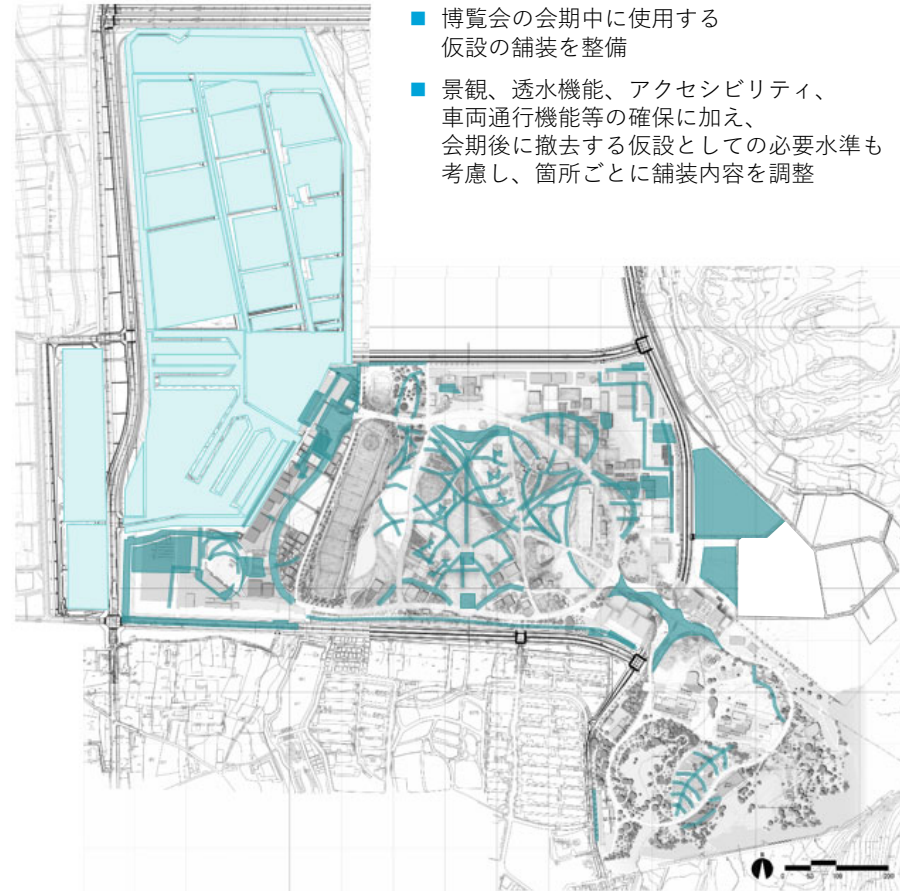
面積	■ 約118.1ha (会場 約75.2ha / 駐車場・バスターミナル 約42.9ha)
来場者数	■ 有料来場者数 1,000万人以上  ■ 1日あたり来場者数 設計基準※ 10.5万人 平日平均 5.3万人 休日平均 7.7万人 ※ゴールデンウィーク等の特異日を除いた最大値から設定
開催期間	2027年3月19日(金)～9月26日(日)

## 主な整備内容

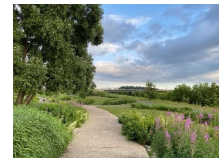
項目	主な整備内容の例 (想定数量は概数)
植栽基盤等	土壌改良 (10ha)
給排水設備	給水管 (13km) 雨水側溝 (3km)
電気設備	電線 (9km)
園路・広場	舗装 (15ha)
サイン・ベンチ等	サイン・表示板 (840基) ベンチ(1,400基)
駐車場・ターミナル基盤	電線 (9km) 雨水側溝 (9km) 舗装 (37ha)
ネットワーク設備	アクセスポイント (150台)

《参考》横浜スタジアムの面積 約2.6ha 横浜駅～川崎駅の距離 約10km

## 整備箇所の例（舗装）



- 博覧会の会期中に使用する仮設の舗装を整備
- 景観、透水機能、アクセシビリティ、車両通行機能等の確保に加え、会期後に撤去する仮設としての必要水準も考慮し、箇所ごとに舗装内容を調整



透水性  
脱色アスファルト舗装  
(イメージ)



透水性  
アスファルト舗装  
(イメージ)



砂利舗装  
(イメージ)

## 主な整備内容

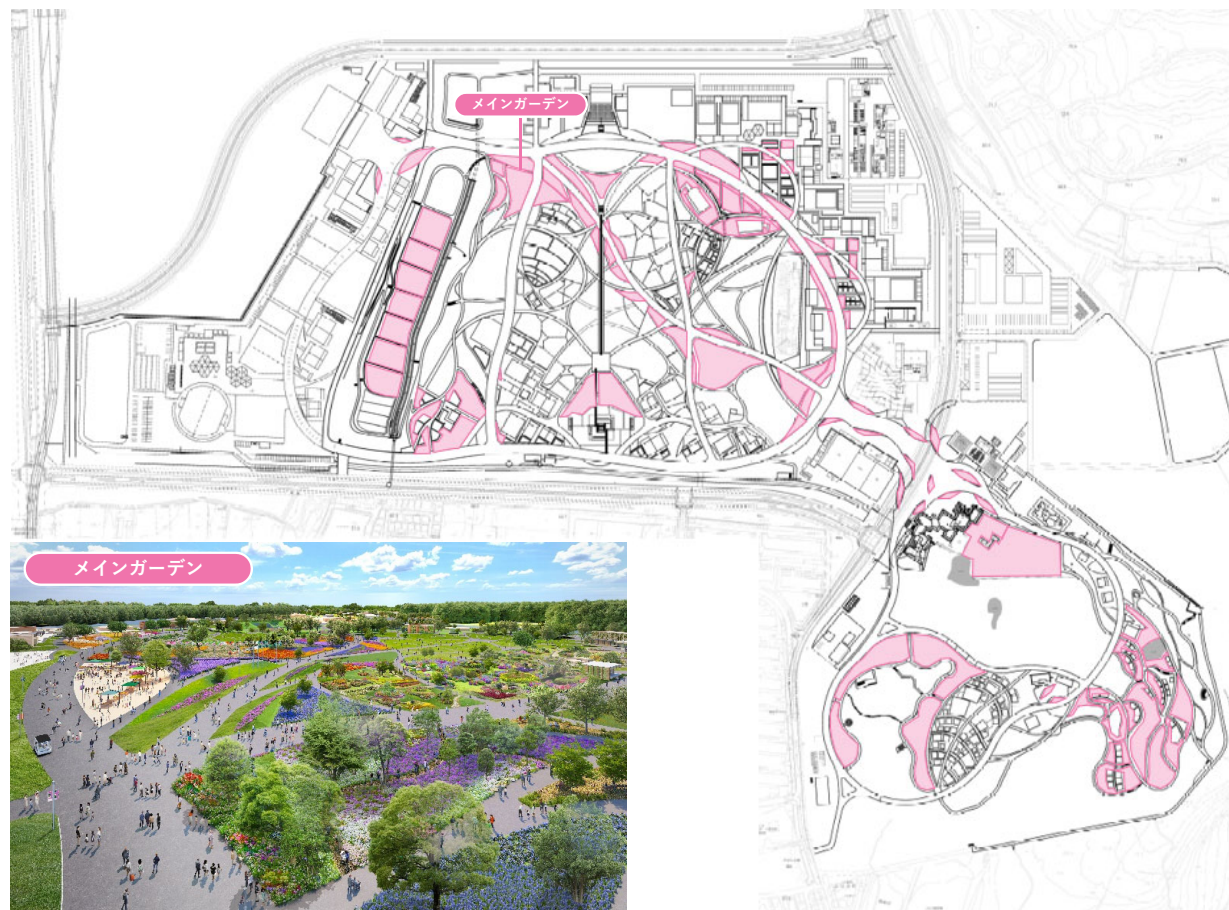
項目	主な整備内容の例 (想定数量は概数)
主催者修景	大規模な花壇・庭園等 (9ha)
コモンズ	植栽 (6ha)
出展支援	学校等の植栽支援/区画間の芝張り等 (協会整備5ha)
移動式植栽等	コンテナ (170基) ハンギングバスケット (100基)

《参考》横浜スタジアムの面積 約2.6ha

## 整備箇所の例 (コモンズ)



## 整備箇所の例 (主催者修景)



※建物の形状や配置を含め、現時点のイメージ

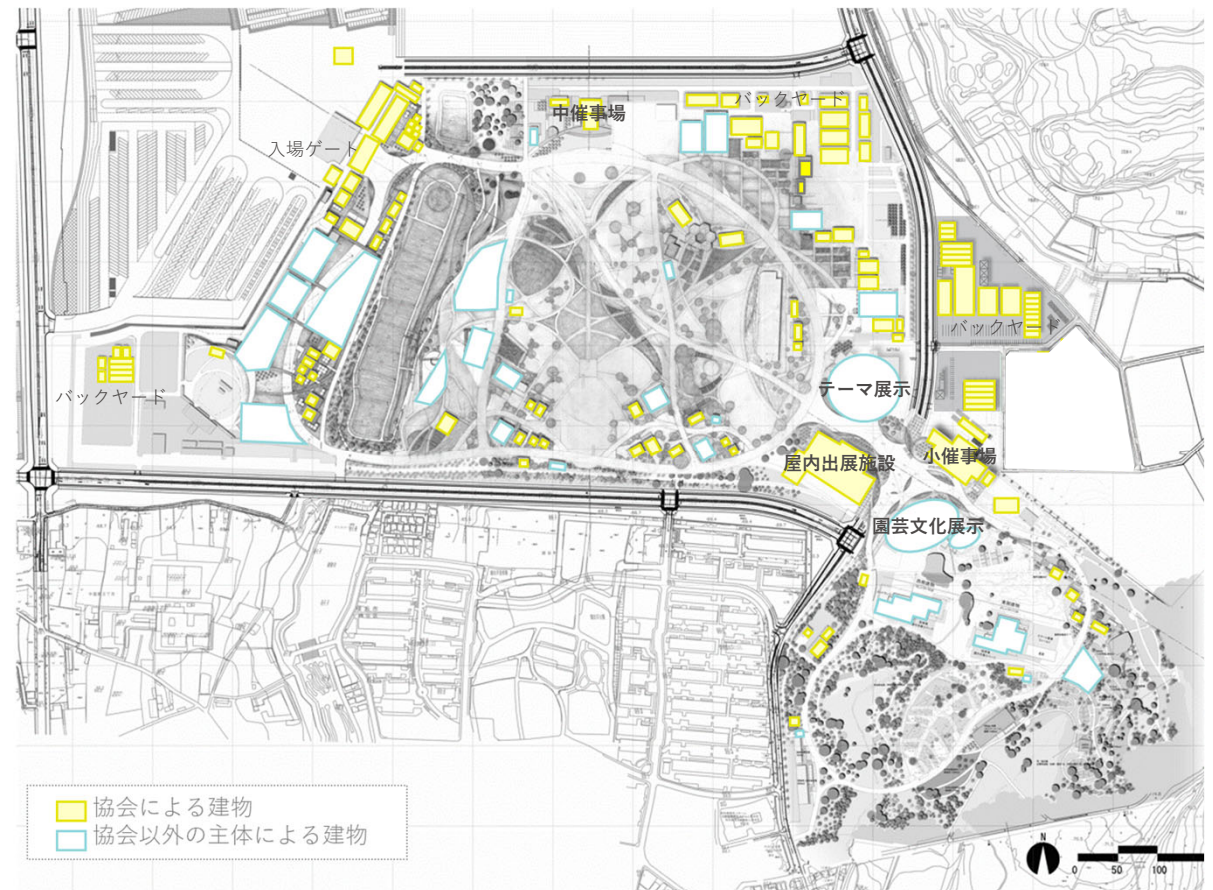


## 主な整備内容

項目	整備内容の例 (想定数量は概数)
テーマ展示/ 園芸文化展示	仮設内装・設備、展示物製作等 (テーマ展示 3,900㎡) (園芸文化展示 1,500㎡) ■ いずれも、公園施設として整備される建物の内部空間を利用
植物交流館	植物交流館 (700㎡) 仮設建築、展示物製作等
屋内出展施設	仮設建築 (4,100㎡)
行催事施設	中催事場 (1,100㎡※・500席) 小催事場 ( 900㎡※・200~300席) ※ステージ・客席のほか、バックヤードを加えた面積
サービス施設	飲食施設 (8,500㎡) 物販施設 (1,500㎡) 案内所 ( 340㎡) 複合棟〔発券所・救護センター等〕(2,200㎡) トイレ (2,300㎡) 休憩所・団体用施設 (2,200㎡)
管理運営施設	入場ゲート (500㎡) / 管理施設 (4,100㎡) 植物バックヤード・物流施設等(8,000㎡) 輸送本部・輸送運営要員詰所等(3,200㎡)

《参考》バスケットコートの面積 約400㎡

## 整備箇所の例 (建物)



※協会以外の主体による建物は、現時点の想定であり、各主体との個別の調整状況や検討状況を反映したものではありません

# 会場整備スケジュール



現在

